

エ 高等部第1学年単一学級の取組

(7) 付けたい力


- 自主的に活動を始めようとする力
- 支援具を活用し、一人でやり遂げようとする力

(イ) 題材の目標

- 各学習の開始時刻を理解し、自主的に活動を行うことができる。
- 学習内容を理解し、必要に応じて支援具等を使い、できる限り一人で行うことができる。

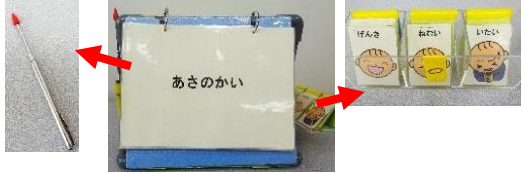
(ウ) 環境づくり

物理的支援環境 ① 教材・教具、支援ツールの効果的な配置



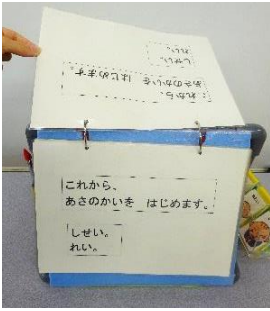
開始時刻を意識しやすいように、時計の真下に模型を設置した。

物理的支援環境 ① 教材・教具、支援ツールの効果的な配置



朝の会をスムーズに行うことができるように、進行表の側面に、朝の会で必要な支援具を取り付けた。

物理的支援環境 ② 児童生徒の発達段階や障害特性に合った支援ツールの活用



朝の会を一人で行う際、友達にもせりふが分かりやすいように、両面にせりふを印刷した。

人的支援環境 ③ 教師の役割



常に全体を把握し、必要な支援を見極めるために、MTは定位置に付いておく。

人的支援環境 ③ 教師の役割



生徒がその場面における適切な内容を理解できるように、評価の規準とタイミングの意識統一を行う。

人的支援環境 ④ 児童生徒の役割



やり取りの内容が明確に分かるように、物を介して友達とのかかわりを行う。

(エ) 生徒の変容（環境づくりに視点を当てて）

- ・ 活動の開始時刻を意識しやすいように、時計盤を時計の真下に設置したことで、自信をもって次の活動を開始する姿が見られるようになっている。現在は、体力づくりの開始時刻以外にも、授業の開始時刻や休憩の終了時刻、給食や帰りの会の開始時刻など、他の場面でも開始時刻への意識が定着している。
- ・ 朝の会の進行表を両面に示すことで、司会の声が聞き取りづらくとも、今は朝の会のどの場面なのかを理解し、落ち着いて会に参加することができた。
- ・ MT が全体把握を行い、教師間の意識を統一することで、生徒が支援を必要とするタイミングを適切に把握することができ、過剰な支援を防ぐことができた。
- ・ 本取組では、他学級の教師にも主旨を伝えて連携することで、休憩時間中に教室の外で遊ぶことが好きな生徒も同様に指導することができた。
- ・ 物を介して友達とかかわることを繰り返すことで、友達が見やすいように提示の仕方を工夫する姿が見られるようになった。



〈朝の会の様子〉



〈時計と時計盤を見て活動を開始する姿〉

(オ) 題材全体の振り返り

卒業後の作業所での生活を想像するとき、出勤してから朝の会までの過ごし方が1日の始まりをスムーズにスタートさせるために重要だと考え、本題材を設定した。特に本題材では、各生徒がスケジュールを理解して見通しをもち、支援を受けつつも自主的に活動できる力を付けることを目指した。毎日ある活動を日々見直しながら取り組むことで、(エ)に記述したような生徒の変容を確実に捉えることができ、求める段階を上げるタイミングも明確になった。「わかる」、「できる」を確実に積み上げたことで、生徒の自信にもつながり、意欲的に活動を開始する姿が見られるようになっている。

(カ) 指導助言

助言者 広島市教育委員会特別支援教育課 主任指導主事 山領勲 様

環境づくりを考える上で、環境づくりの四つの視点到立ち返り、意味合いを教師同士で深く共有し意識統一ができること、ねらいや支援の仕方がつかんでいける。目指す子どもの姿を思い出しながら振り返ると良い。

今回の授業では、活動から活動へ移るとき、どうやったら生徒が自発的に動けるのかがポイントであった。教師が手洗いカードを貼り、机を定位置に戻したのをきっかけに生徒が動き始めたり、教師の言葉掛けで生徒がすぐに動かなくても、しばらくして朝の会の司会進行表を見て動き始めたりする姿があった。生徒本人に気付かせる仕組みづくりが大切である。